

Amir Tsarfati 氏 2017年 12月 23日公開  
クリスマスはクリスマスを祝うべきか?

.....  
スペシャルフェイスブックライブ、テーマは「クリスマスはクリスマスを祝うべきか？」  
では、祈りましょう。

お父様、あなたに感謝します。私たちに与えられた御子を覚えて、思いを巡らす、とても素晴らしい季節です。私たちは、ただ彼にだけ目を向けたいと思っています。

お父様、この配信を通して、人々がクリスマスについて理解するだけでなく、それ以上に、なぜ私たちは祝い、また、何を祝っているのかという事も理解出来るようにしてください。

お父様、あなたは、人々が霊とまことで、あなたを礼拝することを望まれます。全焼のいけにえや香を、あなたは嫌悪され、これらのものがあなたにとって忌み嫌うものとなってしまいました。あなたは、私たちの習慣ではなく、私たちの心を求めておられます。ですから、今日この敏感な話題に触れる中で、あなたが導き、私たちを指導してください。

この全てを、他にはない最も美しい、イエシュアの御名によってお祈りします。ベツレヘムでお生まれになり、私が今いるこの場所からほんの15分ほどの場所、ナザレで育てられた方、彼こそがユダヤ人の王、イスラエルの王、世の救い主です。あなたを祝福し、あなたに感謝し、彼の御名によってお祈りします。アーメン。

アーメン！この非常に繊細な話題について、皆さんの前でお話するのにピッタリな時期です。まず、お伝えしたいのは、私が最初にこの繊細な話題についてお話すると発表した時、そこに付いたコメントの言葉があまりにひどく、一触即発のような様子にとっても悲しくなりました。私はただ、「クリスマスはクリスマスを祝うべきか？」について話をします、と言っただけで、するべきだとも、だめだとも言っていない。自分の意見すら言っておらず、ただそれについてお話します、と言っただけです。しかし、それをきっかけに物凄く炎上して、大変な分裂、不和をもたらして、これには本当に悲しくなりました。これによって、キリストのからだの中に、主の栄光を表しているとは思えない、様々な部分が露呈しましたから。ですから、今日これについてお話する中で、一人一人が刺激され、同時に励まされれば、と思います。私は、これは真っ当な疑問だと思うのです。私のところには多くの人から質問が来ています。「クリスマスは祝うようにとは、聖書には書かれていないが、クリスマスとして私たちは祝うべきなのか？」

もちろん、私のところに届くメールやメッセージには、クリスマスと異教の習慣について、皆さんが書いておられ、それで疑問に思っておられるのです。

「クリスマスは、そういった事に加わるべきなのか？」

今夜は、私はクリスマスの異教にまつわる部分については触れません。そこではなく、この時期の本当の目的について触れていきます。皆さん、次のことを理解しておいてください。まず一つに、イエスを信じるユダヤ人たちは、他のユダヤ人達から

「あなたはクリスマスは祝うのか？」

と聞かれます。しかし、それを聞く時、彼らは

「救い主の誕生を祝うのか?」とか

「メシアの誕生を祝うのか?」とは聞いていません。

彼らが言っているのは、

「家にツリーがあるのか?」

「サンタクロースを信じているのか?」

「そこらへんでやっていることを、あなたもするのか?」

「12月25日に祝うのか?」

ということです。信じがたいかもしれませんが、ユダヤ人はツリーやサンタクロースや、12月25日についても、よく教育されているのです。12月25日は、異教の祝日でもあって、クリスマンがその日を祝日と決めるはるか以前から、異教徒たちによって長年祝われてきたことは、ユダヤ人の誰もが知っています。また、ユダヤ人の誰もが、預言者エレミヤの言った事も理解しています。木を切って来て、家に持ち込み、それに飾り付けをして大切に作る、とか。ユダヤ人はそういった事を理解しています。だから彼らが私に

「あなたはクリスマスを祝うのか?」

と聞く時、私が異教の習慣を実践しているのかどうかを、私の口から聞きたいのです。それが彼らの疑問です。それは、メシア誕生の祝いだとか、メシア降誕の話だとか、そういう事を聞く気は、彼らには全くありません。

とても興味深いことに、イエス誕生の話を読むと、マタイ2章であれ、ルカの福音書であれ、非常にユダヤ教的なのです。考えてみてください。まさに歴史を遡るのです。場所は、エルサレム、ユダヤ、ユダヤ神殿、ユダの部族の人々、祭司たち、預言者の人々、それに成就されつつある預言など。5世紀のローマにさかのぼるのでもなく、中世暗黒時代のヨーロッパでもなく、他のどこにも遡りません。イエス誕生の話は、イスラエルの希望としての主、それが全てです。まさに、シメオンが言っていたことです。彼は言いました。

## 32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です。

(ルカ 2:32)

今私はクリスマス話を読んでいますが、私が読んでいるのは、ユダヤ教を大声で言い表し、旧約聖書を大声で言い表して、聖書を宣言しています。しかし今日、世界中でクリスマスにメシアの誕生として本当の意味で祝っている人は、非常に少数です。そこで今日、私はそれについてお話したいのです。まず明確にしておきますと、誰がクリスマスをお祝いと、私は全く問題ありません。何日に祝おうが、どのように祝おうが、私は全く気になりません。肝心なのは、何を祝っているのか、何故祝っているのか。皆さんにとって、それは明白ですか?一つ言っても良いですか?クリスマス崇拝者を、異教の習慣を祝っていると批判するのなら、私は、同じようにユダヤ人たちを、イスラエルの規定の祭りを、異教徒のように祝っている、と批判します。なぜ、私はこんなことを言うかと言えば、祝日が聖書で定められているかどうかは、大して重要ではないからです。重要なのは、あなたがその目的を理解しているかどうかで、それと、あなたが正しい動機でそれを祝っているかどうかです。

よく覚えているのが、私が初めてクリスチャンになった 1990 年の時でした。私が初めて読んだ預言書は、私の大好きなイザヤでした。私はとても慎重に読みましたが、最初にイザヤ 1 章を読んだとき、大変な衝撃を受けたのです。かつては、安息日にシナゴグに行っていたユダヤ人、祭日にシナゴグに行っていたユダヤ人の私には、物凄いショックだったのです。聖書には、イザヤ書 1 章に次のように書かれています。

14 あなたがたの新月の祭りや例祭を、わたしの心は憎む。

(イザヤ書 1:14a)

想像できますか？神が、イスラエルの人に、新月の祭りや例祭を憎む、と言っておられるのです。そして、こう言われています。

14 …わたしは負うのに疲れ果てた。

15 あなたがたが手を差し伸べて祈っても、わたしはあなたがたから目をそらす。どんなに祈りを増し加えても、聞くことはない。あなたがたの手は血まみれた。

(イザヤ書 1:14b~15)

神が言われているのは、

「わたしが例祭を定めた。しかし、あなたがたが行なっているような礼拝は、わたしは望まないし、わたしには要らない。あなたがたが作り上げたそれを、わたしは憎む。」

「わたしは、それを憎む。」

神がユダヤ人に向かって、レビ記 23 章で定められているユダヤの例祭に関して、こう言っておられるのです。神は、新月の祭り、安息日、それと例祭について言うておられます。これというのは、つまり、私の所に来て、

「私たちは、クリスマス祝うべきじゃない。」とか、

「我々は、旧約聖書にある聖書に適った例祭だけを祝うべきだ！」

と言うのと同じで、それさえも間違った形で祝ったり、間違った動機で祝う事も有り得るのです。

要点はとてもシンプルです。

「何を祝っているのか？」

「何故、祝っているのか？」

これを私たちは自問自答すべきです。そうすれば、私たち全員が祝うべきだと、私が信じているクリスマスとはどういうものが分かります。それはつまり、私たちのメシアの誕生が中心のクリスマスです。ここでもし、あなたがその後ろにツリーを置いたとしても、それはあなたの問題で、私は全く気になりません。もし、あなたが 25 日に祝おうと思うなら、本当に私は、全く気になりません。もしあなたが、どこかにサンタクロースを置こうが、他の何かを置くことにしたとして、信じてください。もし、イエスが中心であれば、私には何の問題もありません。

その理由をお話します。12 月 25 日とは、コンスタンティン（書記注：コンスタンティヌス 1 世。ローマ皇帝在位 AD306~312 ミラノ勅令を發布し、キリスト教を公認した。）によって選ばれたのだと、そこに

ツリーが添えられ、後からサンタクロースが加わって、ヨーロッパの伝統が関わった事も、私は信じています。これらのことを、私は心の底から信じていますよ。数えきれないほどの異教が入っています。それから、私が信じているのは、クリスマスが——少なくとも、コンスタンティンは当初どうにかして、皇帝を支配できるようにするために、キリスト教に異教を取り入れさせようとしたのです。それでも面白いですが、私には全く問題ありません。聖書には、第一コリントにこうあります。聖書が、パウロについてこう告げています。よく聞いてください。

- 19 私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷となりました。
- 20 ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。それはユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人々には、私自身は律法の下にはいませんが、律法の下にある者のようになりました。それは、律法の下にある人々を獲得するためです。
- 21 律法を持たない人々に対しては、——私は神の律法の外にある者ではなく、キリストの律法を守る者ですが——律法を持たない者のようになりました。それは、律法を持たない人々を獲得するためです。
- 22 弱い人々には、弱い者になりました。弱い人々を獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。それは、何とかして、幾人かでも救うためです。
- 23 私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みをとともに受ける者となるためなのです。

(第一コリント 9:19~23)

要点はとてもシンプルです。私は、クリスマスが異教で満ちていると思っています。ただ、クリスマンにとって、これはキリストを伝える良い時期だと思っています。クリスマスの、本物のリアルな話を伝えるのに、クリスマス以上に良い時期はないと思っています。イエスにフォーカスを戻す。メシアの話に、フォーカスを戻すのです。皆さん、理解しなければなりません。私は、ツリーが重要だとは思いません。25日が重要だとは思いません。サンタクロースは、イエスに全く関係ないと思っています。しかし、何百万という人にとって、それがクリスマスなのです。だから、私が思うに、——今日、私はハイファの街の通りを歩いて来ました。ハイファの街は、ユダヤ人とアラブ人の混ざり合った街です。イスラム教徒アラブ人、クリスマンアラブ人、それにユダヤ人もいます。皆さんに見てほしかったですよ。今日は土曜日で、皆が外に出ていました。50人ほどのサンタクロースが通りで踊っていたのです。すると、たくさんのユダヤ人達が喜んで、写真を撮ったりなんかして、感動していて、——彼らにとっては、それがクリスマスなのです。巨大なクリスマスツリーが飾り付けられ、巨大なサンタクロースがあって、彼らにとっては、それがクリスマスなのです。そして、私の教会は、今日必死で伝道してきました。それは人々に、クリスマスとは何なのかを伝えるには、今日こそが絶好の時だからです。どうして、クリスマスの本当の意味を考えるべきなのかを伝える、絶好の時なのです。

皆さん、どうか理解しておいてください。起こった事の全ては、イエス誕生の話さえも驚くべき実話で、旧約聖書の預言の成就なのです。

預言者ミカによって与えられた預言、ミカ書 5 章。

預言者ホセアによって与えられた預言、ホセア書 9 章の預言。

預言者エレミヤによって与えられた預言、エレミヤ書 31 章の預言。

預言者ホセアによって与えられた預言。

旧約聖書全体を通して書かれた、話や説明には、メシアが一人の女から生まれ、その方が実に、イスラエルを支配されること。その人は、彼の国を救うために来られ、そしてその方は、永遠から来られるのだ、ということ。その方は、地の基が定められる前から、そこにおられたこと。詩篇 90 篇は、神が初めからおられた事の証拠だと、ユダヤ人は理解しているのです。つまり、肉体をまとった、神であるメシアです。これら全てが、超聖書的です。そして今こそ、これらについて話をする時なのです。それから、今日はまた、素晴らしいメッセージも聞きました。イエスの誕生によって、預言が成就されただけでなく、彼が生まれた場所、彼の誕生の仕方、エジプトに逃れたことやその他、彼は、それらの旧約聖書の預言を、全て成就させたのです。しかし、興味深いと思いませんか？これらの預言が与えられたのは、イスラエルが靈的に最も低下していた時だったのです。そして靈的に、国としての彼らの失敗を通して、人としての彼らの失敗を通して、神は、メシアを通して素晴らしいことを行う、と約束されたのです。

ともかく、要点は、私たちはキリスト誕生の話を理解しておかなければならないということです。皆さんはこれを「クリスマスの物語」と呼ぶかもしれませんが、これは一人一人の人間にとって、超重要なことです。多くの場合、私たちは自分たちのことを、成功物語とは見ません。ちなみに、フェイスブックでは皆、自分の一番良い写真を載せていますが。ともかく、私たちは自分が本当には何ものであるのかを理解しなければなりません。神が、全世界に伝えようとされているのは、あなたがどん底にいる時こそ、神は、驚くべき変身をもたらすことができるのです。

ところで、クリスマスの話はまた、今日語られていることを多く語っています。聖書は、当時イスラエルの首都であったエルサレムを映し出しています。聖書は、当時そこに建っていた神殿を映し出しています。聖書は、イスラエルの預言者を映し出しています。現在なされている、あらゆる議論を考えてみてください。エルサレムはイスラエルの首都ではない、とか、それはユダヤ人のものだったのかどうか、神殿の丘に神殿は建っていたのかとか、パレスチナ人は「そこに神殿はなかったのだから、神殿の丘とは呼べない」等と言っていますが、考えてみてください。これらの事全てが関連しています。

「ユダヤ人のエルサレムなんてものはない」

等というような話にさえ、です。

今日、皆さんの全員にお勧めします。今年のクリスマスの季節は——皆さんご存知の通り、私は、今が終わりに物凄く近づいていると信じています。だからこの季節は、他のどの季節とも全く違うと思っています。この時、人々はクリスマスのお話を聞く心の準備ができていますから。それがもし、クリスマスのお話が、良い人でいなさいということ、互いに贈り物をし合うこと、一番見栄えのするクリスマスツリー選びなら、誰が一番良いショーを観に行くかということ、誰が一番良いパンチを持っているか、誰が一番良いパーティーに行くかということなら、誰が最高の乾杯をしているかとか、そう言った話なら、私たちは全てを見逃してしまっています。今は最高の時です。フェイスブックは、クリスマスで溢れかえっていますよ。クリスマスパーティー、クリスマスイベント、クリスマスコンサート、クリスマスの芝居、皆がおしゃれしていろいろな食事に行ったり、公式イベントとか、物凄く残念です。皆、季節を

尊重しながら、その理由を忘れてしまっています。今日は皆さん全員にお勧めします。一年のこの時期について、あなたには間違っていると感じる事の全てを横に置いてください。

もしかしたら、あなたは、

「クリスマスは、異教のものだから祝わない！」

と熱心さのあまり、考えているかも知れません。

ひとつこと言わせてください。

パウロを見てください。パウロは、福音のためには、あらゆる人のようにならないと考える、そのようにしていたのです。例えば、クリスマスの日、あなたが賛成でなくても、たとえばあなたが「彼は9月に生まれたのだ」と考えているとしても、たとえ、木を家に飾る事は間違っている、とあなたが考えているとしても、——エレミヤ10章でそのことについて語っていますから——、たとえばサンタクロースが悪魔的で、ドイツのクランプスはそれのサタン版だと考えているにしても、たとえこの世にあまりにも多くの異教文化が入り込んでいる、と考えていたとしても、それに辟易していたとしても、考えてみてください。今こそあなたが、本当のクリスマスの話について、声を上げる時なのです。良いですか？あなたは、頑固頭を通すことも可能です。

「私はクリスマスなんて祝わない！」

と皆に言う？それも構いません。しかし、それをすることによって、あなたは自分を人から遠ざけているのです。考えてみてください。クリスマス祝うことで、ツリーやサンタクロースや、12月25日に自分が賛成している、ということにはなりません。クリスマス祝うことで、実際にはメシアの誕生を記念しているのです。そして、その話を知りもしない人たちに、これこそがこの季節の理由だと伝えるのです。そうして、この時期の意味を知らせるのです。ただ、皆さんには——私は、人が異教文化を受け入れることを望んではいませんよ。しかし、人が福音を宣べ伝える事を、私は期待します。それに、私たちは家に閉じこもってはいけません。家に引きこもって、

「クリスマスなんてない！」

等と言っているはいけないのです。クリスマスは皆が祝っていることです。何十億という人が、クリスマス祝っているのです。だから今こそ、人々に季節の理由を伝えるのにふさわしい時、今こそパーフェクトな時なのです。

それから皆さんにぜひ理解しておいてほしいのは、

**12 …天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないのです。**

(使徒の働き 4:12b)

イエスの御名だけです。もし、クリスマスが過ぎ去って、私たちがイエスを伝えなかったなら、それこそ、私たちが恐れるべき事です。それこそ、あなたが悲しむべき事で、それこそ異教と言えるかも知れません。もし、クリスマスがイエス中心なら——彼だけが唯一の御名ですから——それは正しいことだと私は思います。イエスの御名、イエシュアに物凄い力がある、と私は信じています。そして、一年の内で私たちがこの御名を自由に言える時だから、今こそそれをするのにふさわしい時なのです。誰もが、あなたがそれをする事を予想していますよ。今なのです！

今ですよ！キリスト抜きでクリスマスなんてあり得ません。

ツリーやエッグノック、その他のものがある、キリストがない、なんてあり得ません。皆さん、言っておきます。もし、あなたがその話にこだわり、読むなら——ところで、人がほとんどしないもう一つの話は、話を読まないのです。物凄く豊かな話なのに。——とりあえず、マタイ 1:18~2:18 までを読んでみてください。とにかく、そこを読んでください。その箇所だけでも、とても惹きつけられますから。起こるべき事が既に定められていて、そしてそれら全てのことが、然るべき形で起こった様子は、実に見事です。

神が、主であられることが分かります。

神が、真実であられることが分かります。

神のあわれみを見るでしょう。

神の恵みを見るでしょう。

そこから励まされることがたくさんあるはず。また、それだけでなく、そこから真実に至ります。イスラエルの真実、メシアの真実、エルサレムの真実、神殿の真実、イスラエルの希望の真実、罪の解決の真実、サタンがイスラエルを憎むのは、サタンがイエスを憎んでいるからだ、という真実。

皆さん、次のことを理解しておいてください。メシアの話は、ラケルがその男の子のことで嘆いていることについて、語っています。これについて、考えてみてください。慰められることを拒んだのです（マタイ 2:18 参照）。その理由は、ヘブル語では“彼”がもういないからだ、となっています。彼が、いなくなったのです。「彼」と、単数形です。皆さんの聖書では複数形になっているでしょうが、ヘブル語では単数形です（書記注：日本語聖書の場合、新改訳第三版、口語訳、文語訳では「子ら」、新共同訳では「子供たち」）。これは対比なのです。黙示録 12 章の、男の子を産んだ女との対比です。そしてサタンは、彼女を追いかけます。それは、この女が、この男の子を産んだからです。そして、

## 6 …ひとりの男の子が、私たちに与えられる。…

（イザヤ書 9:6）

イエスが男の子、イスラエルがその国であり、その女です。対比が良く見えて、とても面白いですよ。世がイスラエルを憎むのは、サタンがイエスを憎んでいるからです。とても簡単です。そしてそれが、まさにイエスの降誕物語の中にあるのです。だから皆さん、どうかそれぞれのご家庭で、イエス降誕の話を読んでください。さらに、皆さんにお勧めしたいのは、「預言者の言葉が成就された」と書かれている箇所では、預言者の言葉に行き、神が真実であられることを確認してください。預言者ミカは、彼がベツレヘム・エフラテで生まれることを預言しました。ご自分でミカ書 5 章を読んで、そのころに起こっていた事を見れば分かりますが、イスラエルの国は、霊的に崩壊していたのです。それはもう、物凄く悲劇的で、

「あなたがたは、誰のことも信用できない。自分の母親も、父親も、子どもも信用できない。」

と預言者が言ったほどに、人々は恐ろしい事になっていたのです。それでも、預言者は言ったのです。

「ベツレヘム・エフラテから、救い主が出る。」

「贖う方が来る。」

と。これら全ての絶望の中にも希望があり、その希望は、イエスの中にあるのだ、と彼は言っているの

です。ラケルが嘆いていた時でさえ、ヘロデが全ての赤ん坊を殺した時、

15 …ラケルがその子らのために泣いている。

(エレミヤ書 31:15)

という、預言者の言葉が成就したのです。そしてそれが、

「彼」がもういないからだ」と、単数形に変わりました。そして、慰められることを拒んだのです。他に、慰められることを拒んだのは誰ですか？ヤコブです。ヨセフについて聞いたとき、

35 …彼は慰められることを拒み、…

(創世記 37:35)

と聖書にはあります。誰のためにですか？ヨセフのためにです。

対比が見えますね？ヨセフが死んだと思っていたら、彼は当時、国を救う者だったのです。そして、彼とイエスとの対比を見れば、人々は彼が死んだと思ったのです。しかし彼は、彼の国の救世主でした。見事ですね？墓の中に、イエスが残したのは、ただ衣だけでした。そして、ヨセフがヤコブに残したものは、血が染みついた衣だけでした。考えてみてください。慰められることを拒み、嘆いたのです。彼がいなくなったからです。その嘆きから、希望が生まれるのです。

3 …灰の代わりに頭の飾りを、…

(イザヤ 61:3)

です。話の中から、私たちが学べる素晴らしいことがたくさんあるのです。聖書から得られる、知識の財産が実にたくさんあるのです。ですから、どうか皆さん、ツリーを置くとか置かないとか、キャンディーが要るか要らないとか、25日か23日かとか、そんなわけの分からない事は横に置きましょう。そんなこと、どうでも良いじゃないですか。話を読みましょう。今こそ、皆を獲得する時です。異教の世が、サンタクロースやツリーにこだわっているのなら、彼らに話を伝えましょう。

「メリークリスマス！私たちがこれをお祝いするのは…」

と言って、話を伝えましょう。

この季節の意味を伝えましょう。

この季節には、理由があるのです。

ということで、確かにクリスマスは、異教によって錯乱させられていると、私も思っています。しかし、「これは異教だから、私はそこから距離を置くぞ！」

とは、私は考えていません。

私はこれを、福音を伝えるチャンスだととらえています。

私はこれを、物語を伝えるチャンスだととらえています。

私はこれを、神の真実さ、神の愛、それから神の主権を人々に伝えるチャンスとして見えています。これこそが、私たちがしなければならない事です。

ということで、「クリスマスはクリスマスを祝うべきか？」



私は、私たち全員がメシアの誕生を祝うべきだと思います。

また、他の世界がそこら中で、あまりにも多くの異教文化に錯乱されているのなら、私たちには、この季節の本当の理由を彼らに伝えるチャンスであり、また、私たちの義務でもある、と私は思います。ですから、異教文化のネガティブな面について、インターネット上であれこれ言うのを止めて、この瞬間をとらえて、機会をとらえましょう。自己義認ぶるのは、止めましょう。といっても、クリスマスの祝われ方に納得いかないという人々を、私は尊重しますよ。それでも、それを横に置きましょうよ。

パウロは、アテネに行って居心地が良かったと思いますか？

パウロは、ローマに行って居心地が良かったと思いますか？

彼は、とんでもなく墮落した人々に向き合わなければならなかったのです。しかし、彼は一つのことを知っていました。彼は、これはチャンスである、と知っていたのです。だから、弱い人々には弱者になり、律法の下にある人々には、自分も律法の下にある者のようになり、律法を持たない人々に対しては、自分も律法を持たない者ようになる。ギリシャ人にはギリシャ人のように、ローマ人にはローマ人のようになる。全てのことを、福音のためにする。

どうか皆さん、常に念頭に置いておいてください。このような事は、全て福音を伝える機会です。

明日、私が作ったメリークリスマスの画像と一緒に、メッセージを投稿します。何年か前に私が書いて、説教もした「彼が生まれた日」というとても興味深いメッセージです。その中で、イエス降誕の物語のすべての部分において、何故、どのように、いつ、を伝えます。きっと、皆さん目が開かれると思いますよ。そして、現実へと引き戻されると思います。メッセージを皆さんにお伝えするのが楽しみです。それから、この動画の下のコメント欄で、皆さんのお話を聞くのを楽しみにしています。皆さんが、どのような機会に恵まれて、福音を伝えたか。本当の福音、世界の救い主の降誕の物語を、あなたの友達や、近所の人、ご家族、あなたの周りの人たちにどう伝えられたか。これはあなたのチャンスであり、あなたの義務です。それから、それが出来るのは光栄な事でもあるのです。私はよく言うのですが、神は箱いっぱい「ゴスペル」(福音の薬)を私たちに与えられていて、私たちがすべきことは、ただそれを人々に与えるだけです。私たちには、人にそれを飲ませることは出来ません。しかし、与えることはできます。私たちの仕事は、与える事。彼らの仕事は、それを受け取る事。だからイエスを与えましょう。彼らに、イエスの御名を与えましょう。イエスの御名です。

## 10 主の名は堅固なやぐら。正しい者はその中に走って行って安全である。

(箴言 18:10)

主の御名。クリスマス全体の中で、私が重視するのはこれだけです。

主の御名。イエスに留まりましょう。彼の御名にこだわりましょう。

イエシュア。世の救いです。それが全てです。

大事なものは、ツリーではなく、25日でもなく、プレゼントでもなく、エッグノックでもなく、サンタクロースでもなく、イエシュアです。ベツレヘムで生まれ、ナザレで育ち、エルサレムで十字架にかかって死に、よみがえった方。その方が、もうすぐ戻って来られます。それが全てです。

だから、この季節、福音を伝えますか？もう、終わりの終わりまで来ているのです。神は、終わりの

時、私たちが神の仕事に勤しんでいるように願うといわれました。今は、物凄い時代です。前代未聞の時代です。歴史上の他のどの時代よりも、今のこの時代に生きていることを、私は喜びます。私たちは、イエス・キリストの時代以降、どの世代よりも、多くの預言が成就されるのを目撃している世代、多くの驚くべき事が起こっている世代、多くの宣言や声明が発表されている世代だと思えます。それに、振り返ってみれば、私たちは物語も知っているのです。考えてみてください。イエスの時代のユダヤ人には、処女が子を産むという考え方をするのは、とても難しかったのです。主が死からよみがえる、という考え方を理解するのは、とても難しかったのです。だから、彼らの苦難は、私にも理解できます。しかし、私たちは知っていて、理解しているのです。私たちには、すでに証拠があるのです。私たちは、彼らと比べるとはるかに知識も経験も与えられているのです。だから、わたしが言いたいのは、私たちはこの福音を伝えない事に対して、どんな言い訳も出来ないのです。ですから、あらゆる争いや論争、口撃や攻撃、怒りや何かを横に置いて、そして、イエシュアを伝えましょう。主の御名を伝えましょう。なぜ、彼が世に来られたのかを伝えましょう。彼の重要な点を伝えましょう。降誕の物語を伝えましょう。神の約束、預言がどのように成就されたのかを伝えましょう。神がその約束にどれほど忠実であるかを伝えましょう。これは、私たち全員にとって、物凄いチャンスなのです。皆さん、お気づきだと思いますが、今日私は、他のことをあれこれ考えず、ただイエスを伝える事がどれほど必要であるかだけを強調しようと決めたのです。メシア、イエシュアを皆に伝えるのです。

ということで、お聴きくださりありがとうございました。途中からご覧になった方は、この配信の最初に戻って見てください。サプライズがご覧いただけますよ（フェイスブックライブのみ）。私の長男アリエルを皆さんにご紹介しています。もうすぐ20歳になるアリエルの顔を、皆さんご覧ください。（アミールさんのご長男アリエルさんは、現在イスラエル防衛軍に従事しています。敵から国を防衛するだけでなく、数少ないクリスチャンとしても、様々な戦いがあるようです。どうぞお祈りください。）

皆さん全員に、メリークリスマス！

新年の初めに、またライブ配信を行なえると思いますが、その前に言っておきますと、2018年は物凄い年になる、と私たちは期待しています。

プーチンは間もなく再選されます。

ここ中東では、物事がどんどん白熱して行くでしょう。

考えられないようなことを、目にするでしょう。それからご存知の通り、昨日イスラエルはアメリカと同様、ユネスコから撤退することを決めました。国連はもはや連合しておらず、もはや国際連合ではありません。エルサレムへの投票で、あの組織が一致から程遠い事を証明しました。

様々な事が起こり、エスカレートし、物凄い形で発展しています。

だから、皆さん全員にお伝えしたいのです。

今こそ、主について真剣になる時です。

それから、以前にもお伝えしましたが、もし主の導きがあるなら、若者のスポンサーになって、彼らを私たちの元へ送る事を考慮して祈ってみてください。大学生の年齢の若者たちが、主な敵の標的になっている、と私たちは強く思っています。現在の、学校や大学の洗脳は前代未聞だと思います。子どもた

ちは聖書を憎み、イスラエルを憎み、その憎しみをもって、聖書的な信念や観念を全て憎むように教えられている、と私たちは思っています。この世代にこそ、投資するべきだと私たちは信じています。来年(2018年)6月、若者たちのイスラエルツアーを決行します。これは彼らの人生を永遠に変える経験になりますし、私たちは彼らの中に、主への情熱を燃え立たせて送り返したいのです。この世代のお子さんをお持ちのご両親、またはお祖父さん、お祖母さんは、どうかクリスマスプレゼントに出資して、イスラエルに送り出す事を考えてみてください。それから寄付を募って、経済的に払えない人々、南アメリカ、南アジア、アフリカ、ヨーロッパの一部の経済的に困難な人を招待したいと考えています。これは人生を変える経験ですので、恐らく40人の内、約10名への資金提供を考えています。ですから、どうか彼らをイスラエルに送る事について、お祈りください。そして後は私たちにお任せください。というより、あとは全て、神にお任せしましょう。ともかく、神の民に会い、神の御言葉を見て、神の御子に従うように、彼らを聖書の地に送るとするのは、物凄いことです。

ということで、ご視聴いただきありがとうございました。

ありがとう、ありがとう、ありがとう。

フェイスブックで「LIKE! (いいね!)」の数が10万を超えました。すでにフェイスブックでは108,000人にフォローされています。それから非常に多くの方が、Behold Israelのアプリをダウンロードしてくださいました。素晴らしい写真をご覧になりたいなら、インスタグラムをフォローしてください。

beholdisraelです。ユーチューブでは、もうすぐ登録者数が64,000人に達します。人々が私たちのチャンネルをご覧になって、参加してくださると、とても励みになります。本当に素晴らしいことです。

心からお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

God bless you!

皆さん全員に、メリークリスマス!

最後に、有名なイザヤ書9章を読んで終わりたいと思います。どんなことであれ、クリスマスにこれを読まずに終わるなんて出来ませんから。6節からお読みします。

- 6 **ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。**  
**ひとりの男の子が、私たちに与えられる。**  
**主権はその肩にあり、**  
**その名は、「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。**
- 7 **その主権は増し加わり、その平和は限りなく、**  
**ダビデの王座に着いて、その王国を治め、**  
**さばきと正義によってこれを堅く立て、**  
**これをささえる。今より、とこしえまで。**  
**万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。**

(イザヤ書9:6~7)

これは物凄いことです。本当の本当に物凄いこと。神の御子が、肉体を持った子どもとして来られる。

私たち、すでに信じている者、光の中を歩んでいる者の所に来られる。これは、すでに成就された預言である事を、忘れてはいけません。そして、彼は私たちに与えられたのです。このホリデーに覚えておくには、何と素晴らしいことでしょう！聖書の話にこだわりました。キリスト降誕の話に、留まっています。そして、それ以外の全ては、ただ無視しましょう。人々にイエスを伝えましょう。では、お祈りしましょう。

お父様、あなたに感謝します。この繊細な話題に触れることが出来ました。

あなたは、香やささげ物を求めてはおられません。あなたは、人間の伝統を求めてはおられず、人間の考えを求めてはおられません。あなたは、私たちが霊とまことで礼拝することを求めておられます。

そこでお父様。このクリスマスの季節に入るにあたって、私たちは堅固なやぐらである、主の御名を覚え、主の御名にあつての悔い改めだけが受け入れられるということ、私たちが覚えます。彼の御名によって、彼の御名を通してのみ、人は救われ、癒されることが出来る、と私たちが覚えます。

ですから、このクリスマスの季節、私たちはただイエスだけを人々に宣べ伝えます。みことばの中に留まり、それについて熟考し、そしてあなたの主権、あなたの約束への真実さに依り頼みます。イスラエルの民に対して、そして他の世の人々に対して、約束してくださいました。物事は悪化しますが、あなたに感謝します。あなたは来られ、あなたが私たちに贖ってくださいますから。

主よ。感謝します。あなたを祝福します。

これら全てを、他にない、最も美しい御名、主によって、御使いを通じてマリアに与えられた名前、彼の民を救うために来られた方、神の小羊として十字架にまでかかられた方、天に昇られ、ユダの獅子としてそこにおられる方、戻って来られ、王の王、主の主として統治される方、そして、私たちとともに永遠にいてくださる方。彼の名前は「インマヌエル・神は私たちとともにおられる」ですから。彼の御名によって、彼の栄光のために、私たちは祈ります。

神の民全員が言います。

アーメン。

God bless you!

ガリラヤより、シャローム！

それから、もし新年までにお会いしないなら、ハッピーニューイヤー！もちろん、また同じことを言いますが。

I love you all! ガリラヤより、God bless you! シャローム！さようなら。